様 式 Ｃ－７－１

平成２３年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）実績報告書（研究実績報告書）

1. 機 関 番 号 ３２６０４　　2. 研究機関名 大妻女子大学

3. 研 究 種 目 名 若手研究（Ｂ）　　4. 研究期間 平 成 21 年 度 ～ 平 成 24 年 度

5. 課 題 番 号 ２１７２００８８

6. 研 究 課 題 名 占領期日本におけるＧＨＱ日本民主化政策と翻訳許可アメリカ図書

7. 研 究 代 表 者

研 究 者 番 号	研 究 代 表 者 名	所 属 部 局 名	職 名
４０５２２１２３	スズキ ノリコ 鈴木 紀子	文学部	助教

8. 研究分担者（所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。）

研 究 者 番 号	研 究 分 担 者 名	所属研究機関名・部局名	職 名

9. 研究実績の概要

下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600 字～800 字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ化するため、図、ｸﾞﾗﾌ等は記載しないこと。

昨年度までの研究により、ＧＨＱが戦後占領下日本の民主化政策過程において、アメリカ文学の中でも「西部文学」に特別な関心を払っていたことが明らかとなった。ＧＨＱおよびアメリカ政府が日本にアメリカ式民主主義を移植するにあたり、西部フロンティア言説に基づいた西部のイメージが、その政治思想を適切に反映していると考えられたためである。

本年度は、上記の内容をまとめた論文を更に発展させ、冷戦というより広い枠組みへと研究の射程を広げた。これによる成果は大きく二点ある。一点目は、西部言説に基づくＧＨＱの日本へのアメリカ的価値観の移植は、占領終了1952年までの短期的なものではなく、実は1930年代から長期にわたるアメリカの対ソ連政策の一部であったという新しい側面が見えてきた点である。これにより、二点目の効果として、西部言説は日米間のみならず、アメリカ、日本、アジア、ソ連という巨大な国際的空間に流通された言説として浮上し、西部言説が持つトランス・ナショナル性は大幅にその範囲を拡大することになる。これは、当初筆者の念頭にあった戦後日米関係を枠とした思想体系を想定以上に拡大するものであり、更なる発見の可能性が拓けたと言える。冷戦を視野に入れたこの研究論文は、本年度内に論文集として出版予定であったが、震災の影響等により大幅に遅れ、来年度初夏頃に出版予定である。

本年度の研究では更に、文学以外のメディア―映画―にも調査範囲を拡大した。西部と日本の民主化という議論には、西部劇というメディアの存在が欠かせない。西部劇を調査対象に組み入れたことにより、日本民主化および冷戦と西部の関係性がより濃密さを増して現れてきたように思われる。それは西部劇が冷戦と密接に結びついているためである。アメリカの価値観を映すソフト・パワーとしての西部劇・西部文学の関係性と、そのソフト・パワーを受容する日本人の文化的解釈の間にはどのような関係があるか、その関係性は日本の戦後にどう影響したのか、引き続き研究を続ける。

10. キーワード

(1) 占領　(2) 日本民主化　(3) 西部言説　(4) 西部文学
(5) メディア（西部劇）　(6) 文化解釈　(7) 文化政策　(8) 冷戦